



2012年7月19日

<報道関係各位>

一般社団法人 日本化学工業協会  
会長 高橋 恭平

## 「エネルギー・環境に関する選択肢」について

今回提示された案については、いずれのシナリオにおいても電力コストが大幅に上昇することになり、わが国の成長性と国際競争力を毀損することは必至である。多くの産業において製造拠点を国内に立地することが困難になり、国民生活の基盤となる社会インフラの維持に不可欠の製品供給にさえ支障をきたすことも予想される。

また、今回のシナリオには、さらに膨大な省エネルギーの達成が織り込まれているが、すでに日本の化学産業はこれまでの努力の積み重ねにより世界最高水準のエネルギー効率を達成しており、これ以上の省エネルギー達成のためには多額の設備投資が必要となる。厳しい国際競争にさらされている製品も多く、さらなるコスト負担には耐えられない製品も数多い。

今回3つのシナリオとして示された今後策定されるエネルギーミックスを固定したものとせず、環境変化に応じて柔軟に対応できるエネルギー・環境戦略とすることを強く政府に求めたい。

以上

### 【お手元データ】

- 化学産業の電力消費量は、'10実績で約310億KWh
- 20-25シナリオでも、5.5円/KWhコストアップとなり、年間1700億円強のコスト増。

■本件に関するお問い合わせ先■

一般社団法人 日本化学工業協会・広報部 高橋/高水 TEL:03-3297-2555